



新潟大学旭町キャンパス 医師・研究者・医学生のキャリア支援の会

ひ と ^{ひろ} 尋 の 会

- 2025 年度 活動報告書 -



新潟大学医学部医学科医学教育センターダイバーシティ推進支援室

新潟県女性医師総合支援センター

目次

1、ご挨拶	1
2、ひと尋の会の概要と運営	2
3、今年度の活動のまとめ	3
(1) ひと尋の会アンケート調査結果	3
(2) マタニティスクラブレンタルサービスの全県展開	7
(3) ひと尋 virtual café の開催	7
(4) 第3回ひと尋の会フリーマーケットの開催	9
(5) 新潟大学旭町キャンパス男性育休特集の案内	9
(6) 高大接続事業 新潟大学医学部医学科出前講義	10
4、編集後記	21

ひと尋の会にはホームページがあります。

マタニティスクラブの利用方法や各種情報発信、男性育休特集レポートの公開をしております。
ぜひご覧ください。

で検索

または二次元コードからアクセス



1、ご挨拶

新潟大学医学部長
ひと尋の会会長
佐藤 昇



医師・医学研究者・医学生のためのキャリア支援の会「ひと尋の会」を2019年10月に発足しました。

「尋(ひろ)」はもともと「人が右手と左手を広げた長さ」という単位を表す漢字です。その「右手と左手を広げている様子」から、両手をいっぱい広げて子どもたちを迎え入れる、困っている人を受け入れるという思いを込めて、ひと尋の会と命名されています。また、「尋」が長さの単位を表すことから「空間の広がり」「どこまでも続く可能性」や、「尋ねる」という言葉にも使われるように「深い道理をきわめる」といったイメージも名称に込められています。

少し難しい話になりますが、仏典には「わずか一尋のこの身」という言葉があります。一人の力は微かであっても、まずその一人が責任を持って、両手をいっぱい広げ誰かを受け入れること、そしてその輪が十尋、百尋、千尋と広がり、多様性を広く受け入れる社会となることを願っての命名なのです。

ひと尋の会は皆様の教育・研究・診療環境をサポートするための様々な活動を今年度も行ってきました。2023年から開始したマタニティスクラブレンタルサービスは今年度も利用いただいております、引き続き継続して参りたいと思います。また「LGBTQ+」「誰もが働きやすい職場」をテーマとしたひと尋 virtual café の開催、ひと尋の会フリーマーケットの開催などを行いました。ダイバーシティ推進事業の一環として、将来の新潟大学への進学意欲を高めてもらうために女子中学生・高校生などを対象とした出前講義を県内外で実施しました。また、今年度は当会の活動に関してアンケートを行い、その結果から女性のための休憩室設立に向けて準備を進めています。さらに、男性育休を取りやすい職場であるよう男性育休を特集したリーフレットを発行しました。

「ひと尋の会」は、ダイバーシティ&インクルージョンをめぐる医師・医学研究者・医学生の多様な意見を語り合う場、情報を交換する場であると共により良い解決を見出していく場です。この会を通して、皆さんそれぞれの経験や知恵を寄せ合い、助け合い、自分の力を活かせる場所へ、よりよいものに変えていきたいと思っています。引き続きご理解ご協力賜りますようお願いいたします。

2、ひと尋の会の概要と運営

概要

新潟大学医学部医学科の医学生・医師・研究者のキャリア支援の会「ひと尋の会」は2019年10月に発足しました。窓口を、新潟大学医学部医学科医学教育センターとしています。新潟県女性医師総合支援センターの分室としての役割も担っており、女性医師が勤務し続けることができる環境の支援にも取り組んでいます。情報発信、相談窓口の開設、イベントの開催、事業の実施を通して、誰もが学びやすい場、働きやすい場の実現と維持を目指して活動しています。

今年度、コアメンバーの入れ替えがありました。菊地 利明先生と長谷川 絵理子先生に新しく加わっていただきました。

コアメンバー（敬称略、五十音順）

- 青木 亜美（医学教育センター）
- 伊藤 明子（皮膚科学）
- 岡崎 史子（医学教育センター教授）
- 菊地 利明（呼吸器・感染症内科教授、新潟大学医歯学総合病院病院長）
- 小林 暁子（産婦人科学）
- 佐藤 昇（医学部長、肉眼解剖学教授、ひと尋の会会長）
- 曾束 洋平（形成・再建外科学）
- 染矢 俊幸（新潟大学学長）
- 塚本 恵（新潟大学理事・キャタピラー代表執行役員）
- 長谷川 絵理子（腎・膠原病内科）

3、今年度の活動のまとめ

(1) ひと尋の会アンケート調査結果

【概要】

ー 目的

ひと尋の会の認知状況、日常生活での困りごと、休憩室のニーズなどを調査する。

ー 実施期間

2025.07.14～2025.08.03

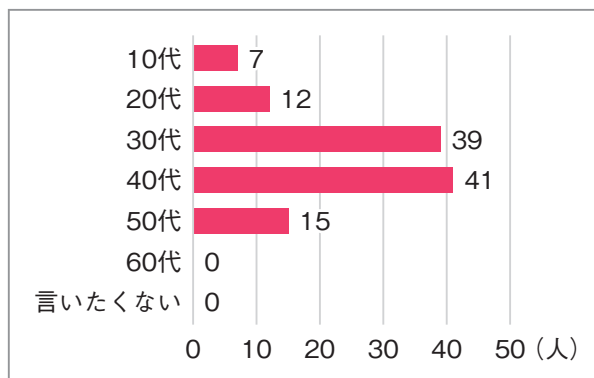
ー 対象者

医学生・大学院生・病院医師・医学科教職員

ー 回答数

114名

年齢を教えてください



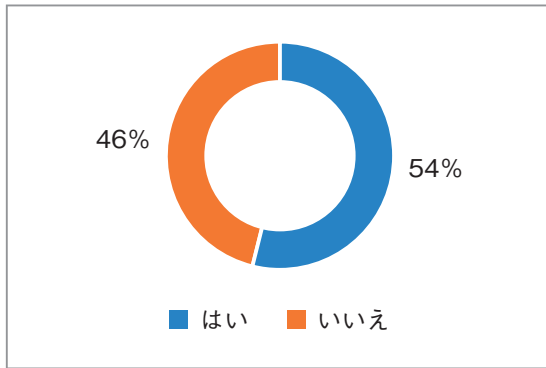
性別を教えてください

	人数
女性	55
男性	57
ノンバイナリー	1
言いたくない	1

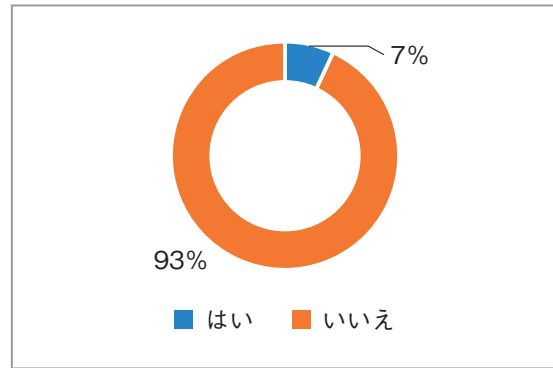
所属を教えてください

職位	人数	%
医学科学生	29	19.3
大学院生	31	20.7
初期臨床研修	3	2
レジデント	4	2.7
医員	14	9.4
助教	34	22.7
講師	8	5.3
准教授	11	7.3
教授	13	8.7
特任助手	2	1.3
特任専門職員	1	0.7

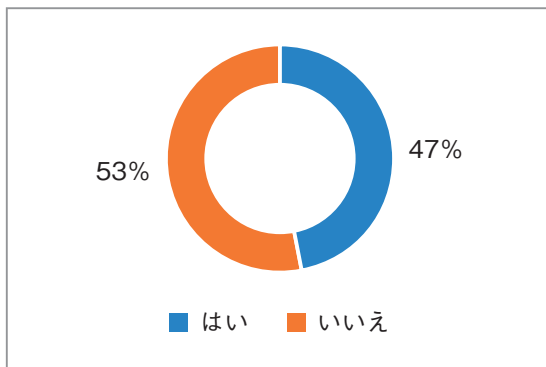
現在、育児を行っていますか



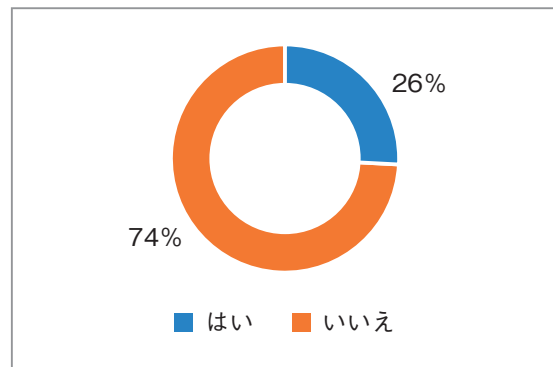
現在、介護を行っていますか



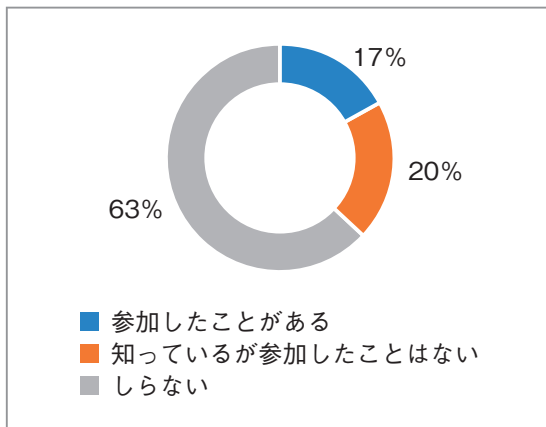
ひと尋の会の活動を知っていましたか



ひと尋の会の活動に参加したことがありますか



ひと尋の会ではバーチャルカフェを実施して、オンラインで学内外の様々な取り組みの紹介やキャリアの悩みの共有、情報交換を行っています。バーチャルカフェを知っていますか



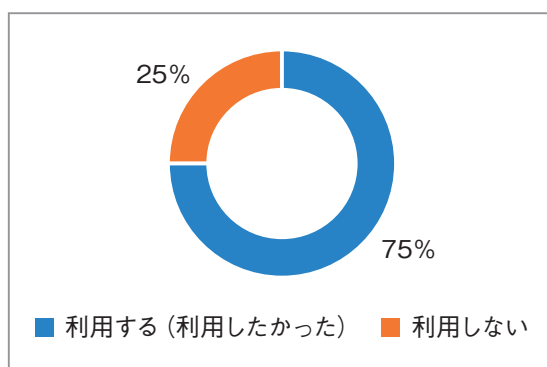
今年度もバーチャルカフェを開催の予定ですが、どのような人から、どんな話を聞きたいですか（一部抜粋・要約）

- 育児中の女性医師からの仕事や研究との両立、キャリア形成の話
- バリバリキャリアを築いた方ではなくても今まさに育児と仕事に奮闘している方の話
- 育休取得を取得した男性医師からの話
- さまざまな診療科、大学の働き方の実例
- 女性活躍について発信する方の講演

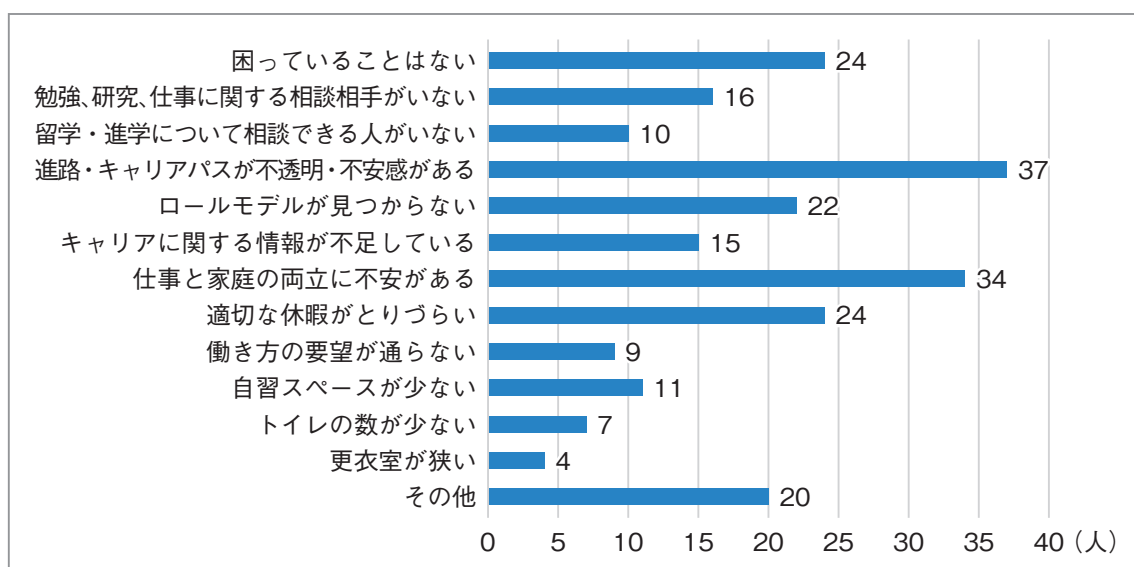
女性の方にお聞きします。月経、つわり、搾乳などでお困りの時、休憩は現在どうしていますか、もしくは過去にどうされていましたか（一部抜粋・要約）

- 在宅勤務している。
- 月経の時は鎮痛薬を飲んでいる。
- 月経の時どれだけ辛くても顔に出さずに我慢していた。
- つわりの時は、トイレにこもっていた。
- つわりで辛い時は、病棟や医局の小スペースに椅子を並べて横になったり、机に突っ伏したりしてやり過ごした。
- つわりで吐きながら仕事をしていた。
- 搾乳の時は、搾乳できる場所も搾乳したものを保管できるスペースもないので困った。
- トイレや外来診察室、研究室内の人が来ない場所に鍵をかけて搾乳したりしていた。
- 体調不良時には休んだり遅刻の許可を得た。
- 辛いけど、周囲は男性ばかりなので辛さを共有できない。
- 以前の勤務先には、横になって休める休憩室がありとてもよかった。

月経、つわり、搾乳など女性特有の悩みの際に利用できる休憩するスペースがあったら利用しますか（もしくは過去に利用したかったですか）



日々の学生生活、仕事のなかで感じている困りごと、不安、改善してほしいことはありますか



その他の意見（一部抜粋・要約）

- 男性育休取得者の医局側にインセンティブを付与して欲しい。
- 病院・大学内に病児保育が必要。
- 勉強、研究、仕事に関する相談相手がいない。
- 学生、職員がリフレッシュできる空間がほしい。
- 経済面が不安。
- 留学生向けの英語資料を増やしてほしい。
- 学生食堂がほしい。
- トイレの換気強化とウォシュレットの完備。

新潟大学がもっと学びやすい大学、働きやすい職場になるにはどうしたらよいでしょうか（一部抜粋・要約）

- 研究で困ったときに気軽に立ち寄れる窓口や、他の教室の方とも気軽に交流できるスペースがほしい。
- 給与を上げてほしい。
- 一部の人に負担がかかる体制を改善してほしい。
- 勤務時間外に会議を設定しないでほしい。
- 一時的な仮眠ができる休憩室がほしい。
- 男性育休普及のための制度を作してほしい。
- 院内の病児保育がほしい。
- 以前よりは良くなっていると思う。
- 若い人の意見を採用してほしい。

ひと尋の会に関するご意見・ご要望、今後期待することなどがあればお書きください（一部抜粋・要約）

- 微力ながら応援しています。
- こうだったらいいな、が少しずつ実現されていて良い活動をされていると思います。
- マタニティスクラブのレンタルを利用して良いサービスだと思った。継続してほしい。
- 会を説明するサブタイトルがあるとわかりやすくなるのでは。
- 男女別の休養室は必要だと思う。
- 医学部出身ではない研究者・技術者へのサポートが少ない。
- 当事者だけではなく支える人にも届く活動や働きかけをしてほしい。

本アンケートから、育児とキャリア形成の両立や男性育休の話題に関心を寄せている方が多いことがわかりました。これらのテーマは引き続き Virtual café イベントやハンドブックを通して情報発信・共有を行ってまいります。また、女性のための休憩室の需要があることが確認でき、設立に向けて動いているところです。いただいたご意見は今後の活動に活かしてまいります。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

(2) マタニティスクラブレントルサービスの全県展開

本事業は2023年9月より開始し、新潟県女性医師総合支援センターの協力を得て運営しております。2025年9月からは貸与対象者を新潟大学医歯学総合病院所属医師から新潟県内全域の医師に拡大し、より多くの方にご利用いただける体制としました。

妊娠による体型変化による医療用衣類のサイズアップに対応して、妊婦用のスクラブ(上・下)2セットと白衣1枚を無償で貸与しています。ご希望に応じて組み合わせや枚数の変更も可能です。

サービス利用者には、各種相談への対応やひと尋の会主催イベントの案内を行っています。妊娠・出産・育児・復職といった様々なライフイベントを理由にキャリアを断念することなく前進するための支援をすることを目的としています。

今年度は、新潟大学所属5名、学外から2名の利用がありました。利用者からは「第1子妊娠中はスクラブレントルサービスがなく、なんとか自前のもので対応していましたが、今回はマタニティ用医療ウェアを借りることができ、快適で助かりました」とのお声をいただきました。本事業は利用者の皆様から大変好評をいただいております。今後もより多くの方にご利用いただけるよう、周知と体制整備に努めてまいります。

(3) ひと尋 virtual café の開催

2020年からダイバーシティ推進やキャリア支援の取り組みの一環としてオンラインでの講演会・ワークショップを開催しています。今年度は、「ダイバーシティインクルージョン」をテーマに、LGBTQ+ や性の多様性についての考えを深めることと、昨年に引き続き「働きやすい組織づくりに対する診療科における取り組み」を共有することを目的に開催しました。学内外の3人の先生からご講演いただき、多くの先生からご視聴いただきました。

第13回までのひと尋 virtual café 開催状況

開催回	開催日時	講演担当
第1回	2020.11.19	県医師会理事 高井先生、皮膚科
第2回	2020.12.15	腎・膠原病内科
第3回	2021.02.18	産婦人科
第4回	2021.06.01	小児科
第5回	2021.07.27	耳鼻咽喉科・頭頸部外科

開催回	開催日時	講演担当
第6回	2021.09.28	呼吸器・感染症内科
第7回	2021.11.01	精神医学
第8回	2022.01.25	呼吸循環外科
第9回	2022.02.14	医学研究・診療応援プログラム
第10回	2022.03.01	生涯キャリアヒストリーワークショップ
第11回	2022.05.16	形成・再建外科
第12回	2023.11.17	子育てと仕事 悲喜こもごも
第13回	2024.12.12	働きやすい組織づくり各医局での取り組み 循環器内科・整形外科・形成外科

ー 日時

2025年11月18日、17時～18時

ー 方法

オンライン開催、録画配信あり

ー 開催概要

1. 開会の挨拶 ひと尋の会会長 佐藤 昇先生
2. LGBTQ+ の基礎知識 吉田 絵理子先生 川崎協同病院、にじいろドクターズ
3. 働きやすい職場環境づくりへの取り組み
上村 夏生先生 高度救急センター・集中治療部
横尾 健先生 消化器内科学分野
4. 閉会の挨拶 新潟大学医学部医学科 医学教育センター 教授 岡崎 史子先生

前半は川崎協同病院・にじいろドクターズの吉田絵理子先生からLGBTQ+ に関してご講演いただきました。吉田先生からの「LGBTQ+ 当事者が同僚にいるかもしれない。知らず知らずのうちに当事者を傷つけているかもしれない」というお話しは、日頃の言動を見つめ直す大切な視点として共有されました。後半は本学の救急集中治療医学講座上村夏生先生、消化器内科学講座の横尾健先生から働きやすい職場環境づくりへの取り組みをご紹介いただきました。シフト制やチーム主治医制といった異なる働き方を背景に、働き方改革後の現場の実際について語られ、参加者にとって多様な視点から学びを得られる機会となりました。

ひと尋の会
Virtual cafe Vol.14
ー ダイバーシティ・インクルージョン ー

2025/11/18 [Tue.]
On ZOOM 17:00～18:00

開会の挨拶 ひと尋の会会長・佐藤 昇 先生

1. 「LGBTQ+の基礎知識」 川崎協同病院・にじいろドクターズ 吉田 絵理子 先生

2. 「働きやすい職場環境づくりへの取り組み」
救急集中治療医学講座 高度救急センター・集中治療部 上村 夏生 先生
消化器内科学講座 消化器内科学分野 横尾 健 先生

閉会の挨拶 医学教育センター 教授 岡崎 史子 先生

事前登録締め切り: 11月11日(火) 17:00

※本イベントはZOOMで参加登録いただいた方にのみ、開催当日、お申し込みを済ませた方に参加いただけます。

ひと尋の会 新潟大学医学部医学科 医学教育センター 主催
新潟大学医学部医学科 医学教育センター 後援
新潟大学医学部医学科 医学教育センター 協賛

ひと尋の会 新潟大学医学部医学科 医学教育センター 主催
新潟大学医学部医学科 医学教育センター 後援
新潟大学医学部医学科 医学教育センター 協賛

(4) 第3回ひと尋の会フリーマーケットの開催

人と人、人と物のつながりを作っていくことを目的として、毎年度フリーマーケットを開催しています。家にある不用品、譲りたい物を出品し、希望者に購入していただきました。育児用品、食器、本など多岐にわたる出品があり、多くの参加者で賑わいました。

－ 日時

2026年2月17日、18日 12時-13時

－ 場所

新潟大学医学部医学科医学教育センター

－ 来場者

約40名



(5) 新潟大学旭町キャンパス男性育休特集の案内

男性の育児休業の取得が推進され、2022年10月には産後パパ育休が創設されなど、男性にとって育休を取得しやすい制度が整ってきました。しかし現場では、男性育休を取得したという声がある一方で、取得したかったが実際には踏み出せなかったという声や、取得を支える側として後押ししたい思いと取得を快諾することができない現実の状況との間で葛藤する声も聞かれ、まだ模索の段階にあります。また、多くの方が関心を寄せている話題であることも確かです。

こうした状況を受けて、ひと尋の会では、男性育休を取得する人も支える人も、次の一步を考えるきっかけとなるよう、「男性育休」を特集したリーフレット vol. 1を作成しました。今後は Vol. 2の発行も予定しています。

「ひと尋の会」のホームページからご覧いただけます。

<https://www.med.niigata-u.ac.jp/hthr/10191/>



(6) 高大接続事業 新潟大学医学部医学科出前講義

昨年度から始めた出前講義を今年も行いました。本事業は、ダイバーシティ推進事業の一環として、新潟大学への進学を検討してもらえるよう、県内及び近隣の県において、女子中学生、高校生をメインに、本学医学科の紹介、医療職の実際、女性医師としてのキャリア形成についての情報提供を行うために実施しております。今年度は青木亜美助教と岡崎史子教授が担当し、県内3校、県外3校を訪問しました。

一 訪問先

新潟明訓中学校・高等学校

東京学館新潟高等学校

埼玉県立浦和第一女子高等学校

新潟市立高志中等高等教育学校

白百合学園中学高等学校

桜蔭中学校高等学校

新潟明訓中学校・高等学校

訪問日：2025年10月28日(火)

参加者：女子学生 18名

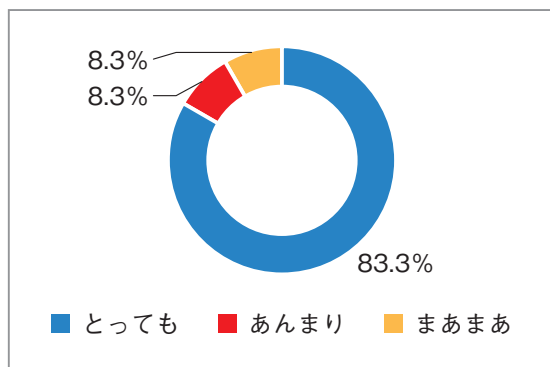
担当：青木



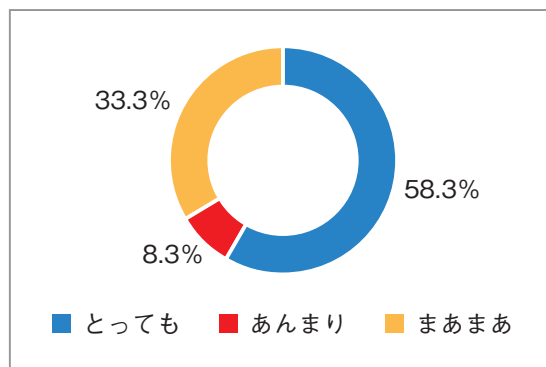
アンケート結果

学年：中1 3名、中2 4名、高1 5名

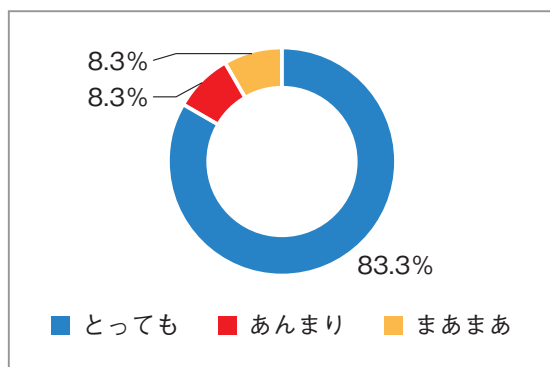
ご自身のためになりましたか



新潟大学に興味・関心が高まりましたか



医療系の職種に興味・関心が高まりましたか



学生さんからのご意見

- 配られたプリントの他にもたくさんメモができて新しいことがわかりました。ありがとうございました。
- 医療の実態などをご自身の体験を通して分かりやすく教えてくださりありがとうございました！
- もっと医療系の仕事に就きたいという思いが強くなりました。
- 優しく話してくれていたのので、発言しやすかったです。
- あまり興味が湧きませんでした。もっと自信の研究や患者さんとのことなどその人にしか言えない事などがあったら面白いと思いました。
- 疑問に思っていたことを明確に知ることができた。
- 夢に近づくためには、努力し続けることが大切だと改めて感じました。お話しされていたことで今私ができていないところを直していこうと思います。
- 今までよりもさらに医療についての知識が深まったし、もっと「なりたい!!」という思いが強くなりました。とっても楽しい時間をありがとうございました!!
- 医療系の職や大学についてたくさん学ぶことができ、これからの選択に活かせると思いました。
- 知らなかった事とかいろいろ知る事ができました。わかりやすかったです!!
- 医療系の職業に興味があって、医療に携わる人として、そして女性としてどのような心構えをすればいいのか、将来を考えるきっかけになりました。貴重なお話、ありがとうございました!
- 医療の現場で大切なレジリエンスの必要性や鍛え方を学ぶことができてとても良かったです。



東京学館新潟高等学校

訪問日：2025年11月4日（火）

参加者：58名（女性48名、男性10名）

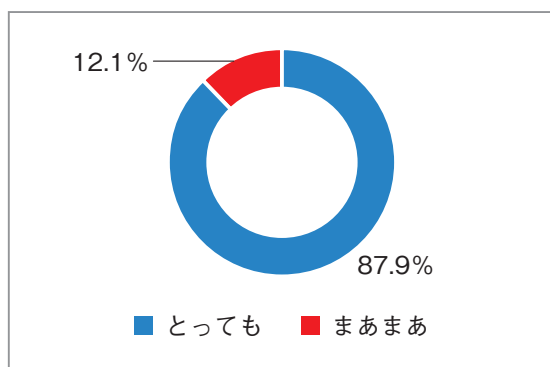
担当：青木



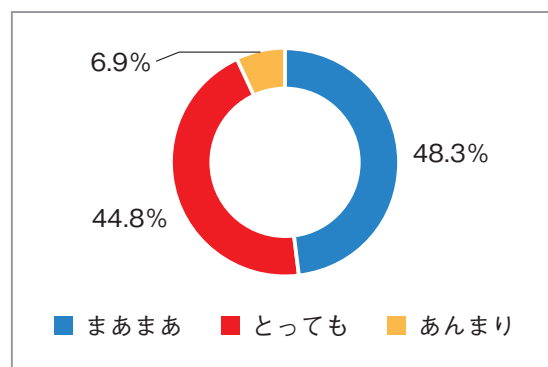
アンケート結果

学年：高1 27名、高2 18名、高3 13名

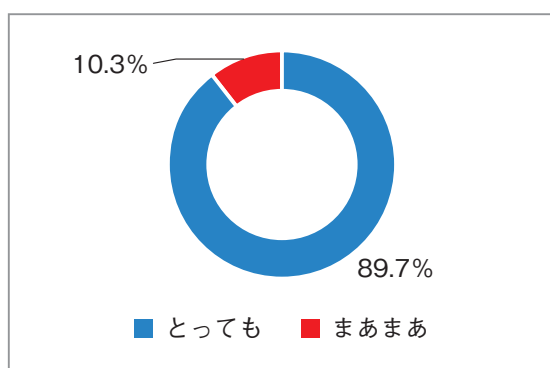
ご自身のためになりましたか



新潟大学に興味・関心が高まりましたか



医療系の職種に興味・関心が高まりましたか

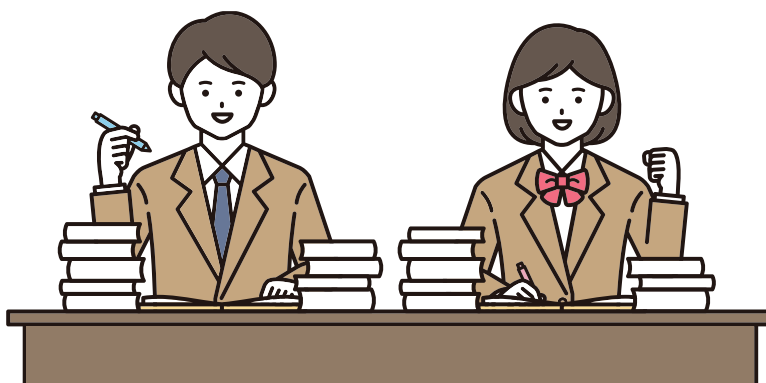


学生さんからのご意見

- ・ 研究職につきたいと思っているのでとても参考になった。
- ・ 医学の道は大変だけどやりがいがありそうだった。
- ・ 自分は高校3年で新潟大学を目指していて今回の機会を受験に活かしたい。
- ・ 説明が丁寧でわかりやすく、医療の仕事にさらに興味が湧きました。
- ・ 医療系の職種につくということは常に学び続けることや自己理解が大切だとわかりました。
- ・ 医療の魅力や面白いところなどを知れてとてもためになりました。特にチーム医療がどう大事になっていくかを理解できた。
- ・ チーム医療を大事にし、心理的安全性を理解していけないことが分かった。
- ・ 医療といったら医師と看護師と薬剤師しかよく知らなかったけど、多種多様な職種があることが知れたし、より興味深くなった。新潟県の医療に対して探究心が湧いた。医療の課題や現状が知れてとてもためになった。
- ・ 医療機関の大変さや現実を知れてもっと頑張ろうと思いました。
- ・ 診療放射線技師に興味があった中で、技師だけでなくたくさんの医療関係者が関わっていることが改めて知ることができてよかった。
- ・ チーム医療について今日学んだことを活かして自分の将来に繋げられるように頑張りたいです。
- ・ 同じ病院内での他職種との連携に焦点を当てていたが、病院同士の連携も必要だということがわかり、連携の認識の幅が広がりました。



- 医師の大変さ、責任の重さを改めて感じるような講演でした。しっかり覚悟をもって将来のための勉強に取り組みたいと思います。
- 看護師を目指しています。患者さんのどのようなことを気にすればよいか、今日の講義で理解できて受講して良かった。
- 実際の医師からの視点で医療の仕組みなどについて詳しく知れたので良かったです。
- 困難な状況でも立ち直ることができる力を、これから勉強面や生活面で高めていこうと思います。
- 医療職に必要な資質を聴けて、これからの三年間で身につけていきたいと思いました。
- 実際の経験に基づいたお話が聞けたことで、深い部分までいろいろ知ることができたとてもいい機会でした。
- 自分は将来どんな形であれ医療に関わり、誰かの命を救いたいと考えていましたが、医療職といってもさまざまな選択肢や働き方があることを学んだため、自分に合うものをさがしていきたいです。レジリエンスを鍛えていきたいです。
- チーム医療について表面上は分かっているけどあまり具体的なことは分からないところもあったのでとても良い機会になりました。新潟県の現状をしっかりと把握したうえで自分も将来看護師として新潟県に貢献できるように頑張ろうと思いました。
- 実際に臨床でも働いている医師の方の話を聞けてすごく興味深かったです。医療に対して知りたいという気持ちがより一層強くなって受験のモチベーションになりました。
- 検索してもあまり出てこない知らないことをたくさん知れて良かったです。



埼玉県立浦和第一女子高等学校

訪問日：2026年2月10日(火)

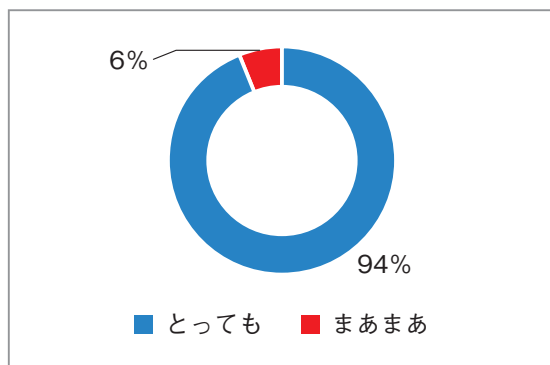
参加者：高校2年生女子 17名

担当：青木

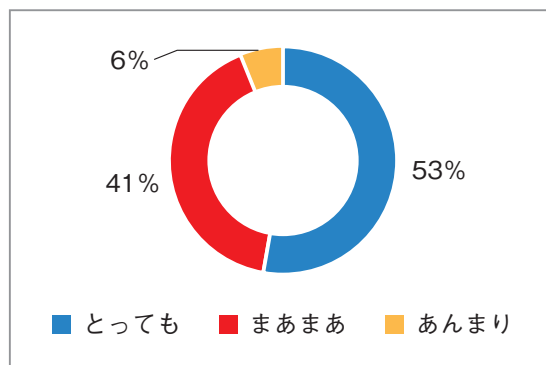


アンケート結果

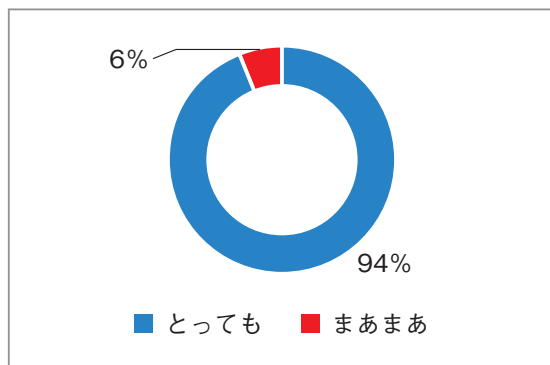
ご自身のためになりましたか



新潟大学に興味・関心が高まりましたか



医療系の職種に興味・関心が高まりましたか

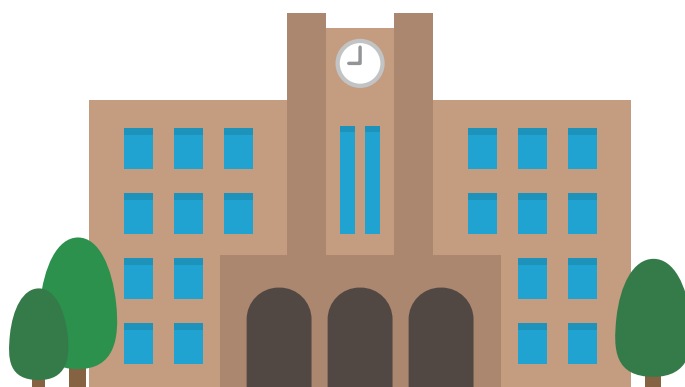


学生さんからのご意見

- ・医療関係の仕事にもともとそれほど興味があるわけではなかったのですが、大変なところ、やりがいのあるところを知って、医師という形で社会と関わっていくことに興味がわきました。貴重なお話ありがとうございました。
- ・地域医療を支えていくためには多くの職につく人の力が必要なのだと分かり、医師も含めて多くの職業についての興味が出ました。医師として必要なことや、大学で学べることについても知ることができ、とても良い学びになりました。
- ・新潟大学には様々なプログラムがあり、新潟大学への進学も考えようと思いました。
- ・私は現段階で志望している学科があったけど、今日のご講演でチーム医療の大切さを学んだのであまり狭い視野で考えすぎないようにしようと思いました。
- ・医師はどんなことをやるのか、またどのようなスキルが必要なのかといった情報を今回得ることができて本当に良かったです。
- ・偏差値を気にしていたので、大学の特色についても調べてみようと思った。
- ・医学部の選び方を聞いて自分が何をすべきか理解できました。
- ・医師というと臨床医師しか大まかに知りませんでしたが、色んな医師がいて、その方々のまとまりが重要ということを知れました。新潟大学では色んな資格をとれると初めて知りました。
- ・医療系の職種につきたいと思っていたけれど、具体的なイメージが湧いておらず、ただ医療は大変、女性が不利になるというイメージが強かったけれど、女性医師の先生の話を実際に聞くことができ、そのイメージを変えることが出来ました。医師という職業がより魅力的に感じました。



- 現在の求められている医療や医師の姿や、一生学び続ける姿勢などについて知ることができ、とてもためになりました。
- 地域ごとに異なるニーズや価値観を知り、それらを踏まえた上で1人ではなく、多くの人と共に患者に向き合う大切さを改めて知ることができました。
- 地方の医学部を考えているのでとても参考になりました。質問にも丁寧に回答してくださり本当にありがとうございました。今のうちからどんな医師になりたいのかをしっかりと考えながら過ごしたいと思います。
- 元々医療に興味があったので、今回の講演で医学部について詳しく知れて良かったです。入試までの約1年間、医療についてもっと調べて頑張りたいと思います。今日は貴重なお話を下さり、ありがとうございました。
- 大学を調べるときに、臨床実習の長さや理念を重視して調べてみたいと感じた。
- 元々一年生の時に新潟大学のオープンキャンパスに行ったことがあり、昼休み中の英会話などオープンキャンパス中でも話されていた内容があったりもしたのですが、医師の大変な点や今身につけておくべきことなどたくさんのことを学ぶことができました。医師は大変な仕事ですがその分やりがいも多い仕事だと思うのでそのやりがいを求めてこれからも学業だけにとらわれず、学と術と道を弁えられるようにしたいです。



新潟市立高志中等高等学校

訪問日：2026年3月19日（木）

参加者：9名（女性6名、男性3名）

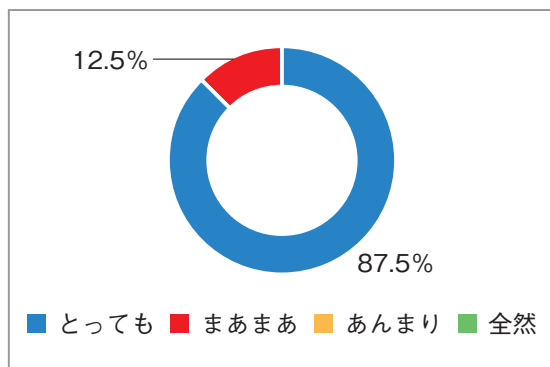
担当：青木



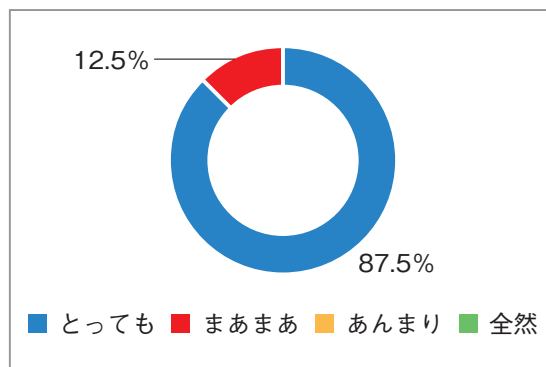
アンケート結果

学年：中1 2名、中2 1名、中3 2名、高1 3名

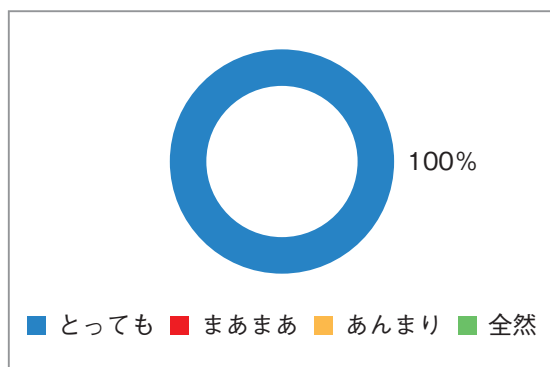
ご自身のためになりましたか



新潟大学に興味・関心が高まりましたか



医療系の職種に興味・関心が高まりましたか



学生さんからのご意見

- ・ 医師の実態が浮き彫りになって見え、より一層医療に関わりたく、より鮮明に将来が見えてきました。
- ・ 看護に興味があって講演会に参加させていただきました。チーム医療の重要性や心理的安全性など初めて耳にする言葉もあれば、より詳しく知る言葉もあって勉強になりました。学力で将来を決めるのもありますが、自分の根気や継続力などを使って将来の道を考えることも視野に入れて行こうと思いました。
- ・ 今までよりも医療・医療職につきたいと興味、勉強を頑張ろう!とやる気が出ました。
- ・ とてもわかりやすくためになる発表でした。知らないことや新たな視点を得ることができたのでよかったです。
- ・ 基礎的な情報から実体験など他では聞けないような内容も聞けてとても良い体験になりました。
- ・ なかなか実体験を聞く機会が少なく、とてもためになるお話でした。特にお子さんの患者さんを看取ったお話はとても心に残り、医療に携わるというかことは責任と覚悟が必要なのだと感じました。
- ・ 大学のカリキュラムについて説明していただき、大学生活がイメージできました。日頃から勉強することは医師になってからも続くので勉強体力をつけていきたいと感じました。貴重なお話をありがとうございました。



白百合学園中学高等学校

訪問日：2025年7月23日（水）

参加者：女子学生 21名

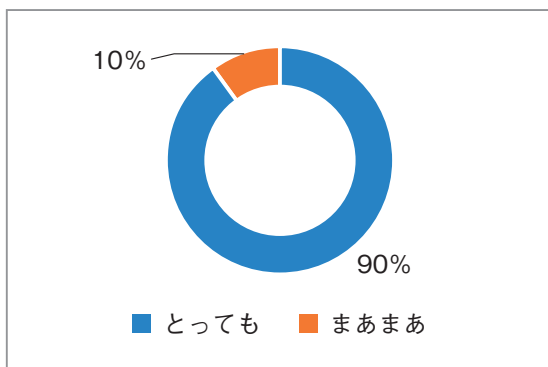
担当：岡崎



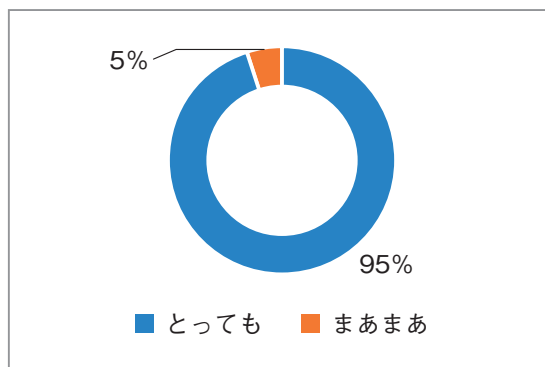
アンケート結果

学年：中3 11名、高1 8名、高2 2名

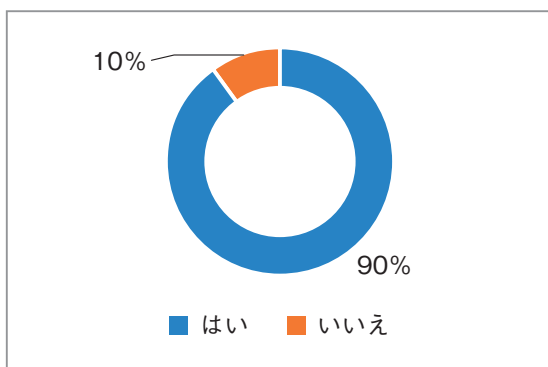
人生会議の授業は面白かったですか



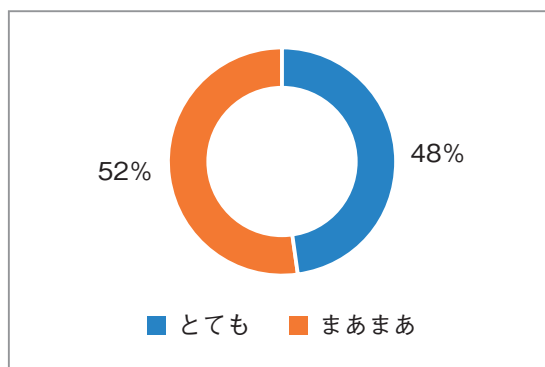
人生会議について、理解できましたか



新潟大学に医学部があるのを知っていましたか



新潟大学に興味がありましたか



学生さんからのご意見

- もしばなカードがとても興味深くて、選び終わった自分の3枚のカードを見てみると特に意識したことはなかったけれど、とにかく「この人生でお世話になった大好きな人たちに感謝を伝えてその人たちに見守られながら幸せな気持ちで死にたい」という自分の価値観が見えてきました。似た価値観を持っていた人もいたし、自分が死んだ後に自分のことで揉め事が起こってほしくないからという理由で色々なことを事前決めておきたいという人もいて、とても素敵なことだし大事ななと思いました。
- 終末期の人生について考える機会は、今までありませんでした。いざ考えてみると、どのようなことを大切にするか、捨てるかを考えることが難しく、まだまだ人生について深く考えていないと思いました。家族ともこのような話し合いをしたことがないので、この機会に話し合ってみようと思いました。
- 自分が死ぬ時にどうするか、という話題は今まで触れてきたことがなかったので、家族とも共有したいと思った。
- もしバナゲームでは人によって価値観の違いがあったけれど、後悔しない人生にしたいという根本は同じだと感じました。人によって価値観が違うので自分の生き方や終末期の措置について家族や大切な人と共有する人生会議はとても重要なことだと思います。安楽死や医療費など様々な問題があるけれど、未来を担う私たちがよく考えて、行動することも大切だと考えました。



- ・ 班でもし話ゲームをしてみて、死を迎えるときにどのようなことに重きを置きたいか、というのは人によって様々だということがわかり、家族であらかじめ話し合って自分の意思を伝えておくことの重要性を感じました。自分の価値観を知ることでもでき、良い機会になりました。
- ・ 人生会議をするべきだと強く感じました。
- ・ 私は今回初めて人生会議という言葉を知りました。最近、私の祖父に認知症の初期症状が出始め、家族で介護について話す機会が増えてきていたところだったので、人生会議のお話はとても身近に感じました。授業中行われたゲームによって、私はお金に関する心配を結構していることが分かりました。しかし、同じグループになった人たちの多くは親しい人と一緒に過ごしたいと思っていて、人によって価値を置くものは違うのだと思いました。また、同じ人でもそのとき置かれている状況で何に価値を見出すのかは変わるのだと思いました。今回の授業を踏まえ、家族でどのような医療や介護を受けたいのか話しあってみようと思いました。また、そのときに話し合うだけでなく、より自分の家族について理解するために普段から積極的に関わろうと思いました。そして、もし家族が自分の価値観とは合わない意見を言ってきたとしても、それを否定せずに受け入れられるようになりたいと思えました。
- ・ 私は医療系ドラマが大好きで医療に興味を持ち、今回の授業に参加しました。今日の授業は、普段の日常生活では考えないようなまだまだずっと先であろう「終末期」について考えるきっかけになりました。特に印象に残ったものはカードゲームでした。それまでに先生がお話くださった終末期の医療的、そして自分自身の気持ちについて、なかなか掴めなかったものが実体験を通して深く理解し、自分の価値観とじっくり見つめ合えたアクティビティだったと思います。全体的に終末期には家族と一緒にいたいという人が多いように感じましたが、それは私たちが今不自由なく家族と楽しく暮らせているからなのかなと感じました。でも、家族とあまり関係を持っていない人や独居の方はどう思っているのか疑問に思いました。だから、今度はこのゲームをさまざまな学校にいる子や広い年代の方々と一緒にやってみたいなと思いました。本日の授業では新たな視点を得ることができ、とても学びになりました。
- ・ まだ若い私たちにも人生会議というものは大変重要なのだとわかりました。私たちはまだ若くてもいつ死の危機に直面するか分かりません。その時に自分がどのようにでありたいかというのを考えるのは少々億劫になってしまいがちですが、それを考えられる人は自分だけなので日頃から自分の死について意識を向けていようと思いました。
- ・ 死について考えたことがなかったので、興味深かったです。
- ・ いつ死ぬか分からない家族や自分の為に、日頃から人生会議をしておこうと思いました。
- ・ 新たな目線で人生を送ることができそうです。家族で話し合ってみます。
- ・ ちょうど身内で不幸があり、終末期について考えていたところだったのでより興味深く感じました。今後、祖父母や両親と時間を作ってじっくり話せばいいなと思いました。
- ・ 人生会議という今までにない話題について自分の意見だけでなく他の人の意見も交えて考えを深めることができとても有意義な時間でした。
- ・ 家族や自分は病気で末期になってしまったらもう意識はなくどのようにして欲しいか伝え合うことができないと思うので人生会議を今のうちからしておくのは大切だなと考えさせられるきっかけとなりました。

桜蔭中学校高等学校

訪問日：2025年12月18日（木）

参加者：女子学生 21名

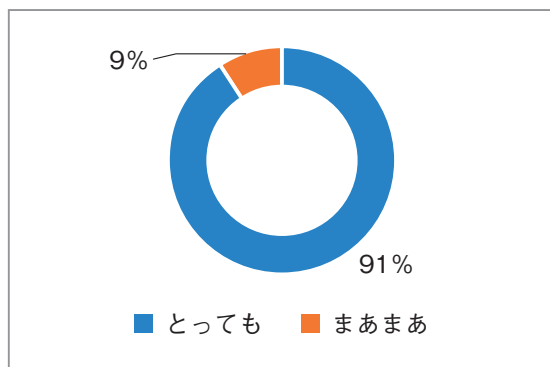
担当：岡崎



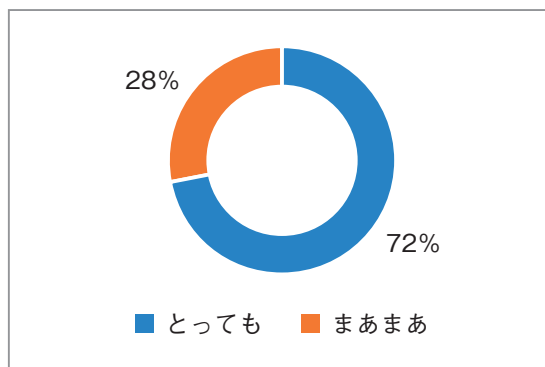
アンケート結果

学年：中3 12名、高1 4名、高2 13名、高3 3名

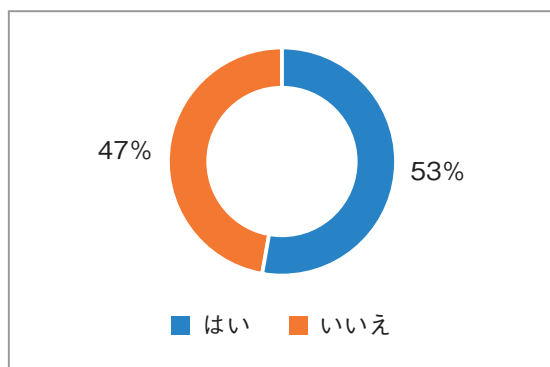
授業は面白かったですか



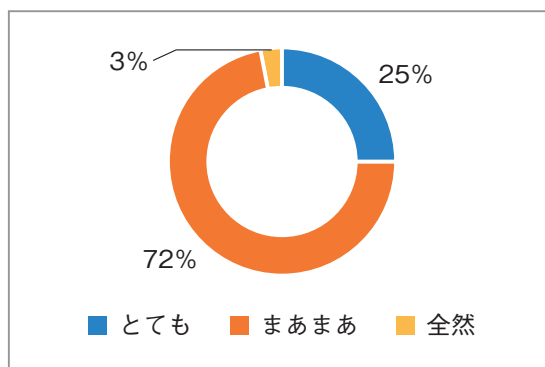
授業内容について、理解できましたか



新潟大学に医学部があるのを知っていましたか



新潟大学に興味がありましたか



学生さんからのご意見

- 日本を含めたさまざまな国の安楽死の制度や、いろんな事件と裁判を知ることができて良かったです。
- 安楽死について丁寧に歴史や実例を追ってくださって興味深かったです。認知症や精神疾患の患者に対する意思確認の難しさを感じました。
- ここで聞かなければ知らなかった話がたくさんありました。特に事例をたくさん知ることができたのが、今後の考え方や思想や価値観に活きそうだな…と感じました。
- 安楽死についてよく知ることができて良かったです。安楽死が広く普及している国もあることに驚きました。日本は特に家族という集団を大切にしている、ということに対し、確かにそうだな、と思ったし、興味深く感じました。
- 欧州でははるかに速いスピードで進んでいる安楽死制度について、この先安楽死への姿勢は積極的なままで取り組まれていくのかどうかということが気になりました。安楽死を当然の選択肢の一つとして含むべきか、まだ特別な措置として扱うかは議論の割れるところだと思います。興味深いお話をありがとうございました。
- 安楽死についてオランダなどの国ではここまで容認されていることを知らなかったのが驚きました。また、人生会議という言葉も初めて聞きました。意思を伝えることができなくなる前に治療の進め方などについて話しておきたいと思いました。



- 尊厳死や安楽死について、なんとなくは把握していましたが、海外の事例など過去の事例から現状まで、様々な事を学ぶことができ、非常に理解が深まりました。
- 安楽死についてはずっと推奨すべきだと思っていたが、そう一筋縄にいかないほど難しい問題があるとうかった。また、私の祖父が人工透析をしていたので、そんな辛い中祖父は生きていたいと思ったのか考えさせられた。
- 安楽死は、答えが定まらない難しい問いですが、法制化の歴史や今の日本での状況について詳しく知ることができて良かったです。
- 尊厳死という普段じっくり考える機会の少ない難しい問題に向き合うことができ、とても貴重な時間でした。
- 本当に面白かったです。私は十代なのであまり自分の死を意識せずに生きており、自分のやりたいことをいつかやって、そのあとに寿命を全うできたらな、くらいに思っていました。しかし今日の講演を伺って、死はいつでも(カレンさんのように若くても)、どんな形でも(つまり想像を絶する亡くなり方)やってくる可能性があることを改めて認識し、その状況で私がどう生きるか、死にどのように接し、死ぬときはどのように死にたいのかをよく考えなくてはいけない、と強く思いました。
- 全く予備知識のない状態でしたが、とてもわかりやすく、興味深かったです。安楽死を認めるかどうかや各国の安楽死についてなど普段きくことのないお話をきくことができ、考えるきっかけとなりました。
- 安楽死についてなんとなくしか知らなかったの、理解を深める良いきっかけになりました。安楽死に関わる色々な事件が起きていたことも詳しくは知らなかったの、今回初めてちゃんと学んで興味深かったです。また、自分がどういうふう死にたいか、最期の時に大事にしたいことなどを考えたことがなかったので、これから意識してみようかなと思いました。
- 倫理の授業で学んだことよりもより深いことを、知り、考え、学ぶことができました。
- 普段は深く考えない自分の死というテーマを深く考えられる貴重な機会でした。
- 安楽死の捉え方は時代とともに変化しており、現在は安楽死を許容する社会になりつつあると感じました。この変容をどのように受け止めれば良いのかわかりませんが、その人が望む死を尊重するのが尊厳死の観点から考えると最善なのだと思います。でも、歴史を振り返ると、一度認めた安楽死は、どんどんその基準が緩くなっていて、これからも安楽死のハードルが下がり続けるのではないかと危機感を抱いています。
- 2時間とても有意義な時間でした。国によって安楽死への対応の仕方が違うんだなと感じられ面白かったです。
- 自分は今まで自分の人生は自分のものと考えていたので安楽死についても、本人が最終選択をするならば認可されてもよいのでは？くらいに考えていたのですが、それも自分の価値観による結論なのだと実感し、他の人達がどう考えるかということも考慮して、難しいけれど考え続けていかなくてはならないことだと思いました。
- 安楽死が各国でどう受け止められているのかを知ることができ、安楽死について自分で考える判断材料になりました。とてもありがたい内容の授業でした。
- 今まで縁起でもないと思って避けてきた話題でしたが、「死」というのは人生の最後の大きなことなので、死に方について向き合っていくのはとても大切だと思いました。
- 医学部ではこのような授業をすることを初めて知りました。
- 安楽死の問題は、明確な基準をもって良し悪しを判断することが非常に難しいということを再認識できました。
- 病院で死にたいか家で死にたいかなど、ほかの人との死に対する価値観の違いが見えて面白かったです。また、安楽死の是非に関するこれまでの裁判の結果から人々が人をあえて死なせるということについてどう考えてきたのかわかって興味深かったです。
- 安楽死の歴史、具体的な事件とそれを踏まえてどう法律や考えが変わっていったか説明して下さり分かりやすかった。
- 安楽死や尊厳死については英語の作文でもよくテーマになっていて、それについて詳しく知れました！また、自分がどのような価値観を持っているのかについても考えるいい機会になりました。

4、編集後記

今年度も多くの皆様に支えていただき、ひと尋の会の活動を継続することができました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

今年度は、前年度からの事業の継続に加えて、マタニティスクラブ利用対象者の拡大化や男性育休特集など新しい取り組みを実施しました。さらに、来年度に向けた新しい取り組みの準備も進めています。

これからも必要な方に寄り添う活動を大切にしながら、より一層充実した支援を行なってまいります。引き続き、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ひと尋の会事務局 青木 亜美



2025 Activity Report

